

令和元年度 第2回 松本市多文化共生推進協議会会議録（要旨）

1 日時

令和2年1月23日（木） 午前10時00分～正午

2 場所

パレア松本（松本市女性センター） ネットワーク室

3 出席委員（11名）

会長	佐藤 友則	委員	松井 一晃
副会長	犬飼 プリヤモン	委員	杉田 千織
委員	尻無浜 博幸	委員	岡田 忠興
委員	高橋 淳	委員	小松 力
委員	陳 思静	委員	山岡 徹也
委員	持山 シャロン		

4 事務局

総務部人権・男女共生課	課長	前澤 典子
同上	課長補佐	藤松 智彦
同上	主事	梶山 直樹
同上	嘱託	竹野入 智恵

5 会議次第

(1) 開会

(2) 委員長あいさつ

(3) 会議事項

ア 第2次松本市多文化共生推進プラン施策の取組状況について

イ キーパーソンの具体的な活動の明確化について

ウ その他

(4) 閉会

6 会議の要旨

次ページ

事務局

(第2次松本市多文化共生推進プラン施策の取組状況、事前の施策質問について、資料に基づき説明)

会長

はい、事務局からの説明、どうもありがとうございました。

また、かなり長い間で、その間に皆さんもメモされており、質問項目などが浮かんできたかとは思いますが、今回、説明いただいたもので、まずは、質問された委員さん、この回答についてはいかがでしょうか。

委員

やっぱりいろいろ難しいことがあります。よりですね、各機関と、いろいろ話をしながら、連携しながら、私が質問を出した責任もあるので、いろいろ話し合っけながら、お手伝いをしながらやっていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。ありがとうございます。

会長

ありがとうございます。

委員

とにかくたくさん項目があつて、具体的に自分が関わつてないというか、経験をしていないこともあつて、イメージが湧かない部分があります。どんなことを、どの程度までやられているのかな、何が課題で、例えば、これに関してはすぐできるよねとか、これはもうしっかりベースを、いわゆる基盤をちゃんと整えてからでないと、あとで混乱するよねとか、そういったものが恐らくあるんだろうなと思つたりします。

ただ、ここにある項目、こんなにたくさんできるのと思ひ部分もあるんですが、やらなきゃいけないことなんだろうと私も思ひます。これだけたくさんを、やっていかなきゃいけないわけですので、大変だと思ひんですけど、その中でも、年度ごととか、この短期、中期、長期っていうスパンの中で、やっぱりちゃんと振り分けながら、地道にやっていく上で、行政任せじゃなくつて、市民も一緒になつて取り組まれるような雰囲気というか、そういったものを作つていく、様々なアプローチを考えなければいけないなと思ひました。

会長

ありがとうございました。

質問された委員さんの、最後の質問ですけれど、他の県外市外のボランティアとの連携。こういふところは、例えば長野県北部の氾濫、千曲川氾濫に対して、どれくらい北部の人たちと、県外、市外の人たちの繋がりがあつたかで恐らく動きが違つてきたかと思ひますよね。

そういう意味では松本市内のいろんなメンバーが、市外、県外のいろんな人たちと繋がりがあると、あの人が大変だから行こうっていうかたちで動くということはあるので、大事な視点だなと感じました。

また、今コメントいただきました、松本の、やはり一般の市民の活動、そういった意識というものが、決定的にまだ不十分なんではないかと。委員さんがおっしゃられたように、一般の人からすると、こういったことが動いている、実態があるということを恐らく全くご存知ない。関心を持たれると、そんなに大変なんだとか、こんなに大変なことを市役所はやってくれているんだと。そういったことを気づかれる方も多いんですけど。やはり、まだごく一部のちょっと変わった人たちの活動というのが、現状なんじゃないか。それをどうやって広げていくか。このプランを2010年に最初に検討して2011年にできた時からの課題なんですよ。プランができれば、ある程度広がるのでは、というほど甘いものではなかったもので、やはり広報、そして巻き込んでいくというのが大事だと感じます。

では、他の委員さんの方でも、ぜひご覧になった上で、ご意見として、今の説明の中で、改めて、そうなのかっていうようなことがありましたら、ぜひ、発言お願いしたいと思います。ぜひ気楽に、お声を上げていただければと思います。

委員

まず全体的なことからですけれども、他の委員さんからもご指摘ありましたけれども、いろいろ施策状況をお話いただきましたが、これ、短期中期長期の振り分けっていう、その優先順位っていうのがですね、見えてこないのですよ。以前にも私、委員会で申し上げたことがありますけれども、やっぱりその優先順位をつけて、実施しないと、これだけ多くの項目があって、しかもその他の担当課にもお願いしているという状況で、予算もスタッフの数も限られている中で、施策実施しなければいけないような状況の中ではですね、優先順位をつけることは非常に重要だと思いますので、それをお願いしたいと思います。

あともう一つ、日本語ボランティアの養成講座の開催で、今年度はボランティアが充足しているため実施していないとあるんですけども、これはぜひやっていただきたいと思います。私、中央公民館の日本語講座で、スタッフをしているんですけども、スタッフの数はそんなに少なくはなっていないんですけども、やっぱり、いきなりですね、スタッフで入ってこられた方っていうのは、どういう風に教えたらいいのかっていうのが全くわからないですし、スタッフに入るかどうか悩んでいる方の中では、英語を話せないと務まらないとか、日本語以外話せないとスタッフをできないんじゃないかって思っている方が結構いらっしゃるんですよ。そういう方に対する周知の意味でもですね、ぜひ、日本語ボランティアの養成講座っていうのは実施していただければと思っています。以上です。

事務局

ご意見ありがとうございます。

申し訳ありません。今日、生涯学習課の担当者が、別の会議と重なってしまっておりまして出席できていないため、直接お答えできないんですが、今ボランティア充足しているとは

言っても、やって欲しいということでしたので、これにつきまして、また生涯学習課に伝えていきたいと思いますが、教室を開催しているんですが、参加される生徒さんが、なかなか増えてきていないというような状況もある中で、今年度は様子を見るということで、実施しなかったとも聞いております。しかし、今、委員さんおっしゃられたように、スタッフが、どのようなスキルがあればいいのかということも含めてやっぱり、周知していくっていう意味でも、継続してやる必要があるかと思っておりますので、生涯学習課にはこういったご意見があったということで、伝えさせていただきたいと思っております。

優先順位については、プランの方も確認しながら、後程またお答えをさせていただきたいと思っておりますので、もし他に意見がありましたら、先にそちらをお願いします。

会長

はい。では、日本語のボランティア養成、そして、日本語教室ということについて、情報提供させていただきたいと思っております。昨年、6月に日本語教育推進法というものが施行され、国を挙げての日本語教師の養成、そして、今後の資格化、そういう形がどんどん加速化、これからしていくところです。11月、そしてこの2月にも、日本語教育の専門家の会議があり、それがすぐに内閣の方に伝わり、それで政策として発表される。そんな動きがもうどんどん進んでおります。今まで、日本語教室という形でボランティアの方が日本語を教えるっていうふうな流れ、それが数十年続く状態ではあったんですけど、やはりそれでいいのかっていうふうな流れが、今の国の流れでもあり、どんどん本格的な日本語教育を勉強し教師になる方、また一方で、学習支援者として教えるというよりも、外国由来の人に寄り添って、いわば、話し相手、もしくは相談相手もしくは市役所や行政機関などへのつなぎ役、そういうふうな位置付けとしての方が、これからおそらく求められてくる。いわば、すべての日本人が日本語を教えなければならないのか。一部のある程度、真剣に本当にやろうという人が日本語教師になり、その人が何人もの学習者の面倒を見て、その面倒を1人で見切れるわけもないので、学習支援者が、指導の終わった後のサポート、話し相手であったり、会話パートナーであったり、そういった形で、関わっていくっていう形がいいのではないかと。長野県が今行っているものになりますね。そう考えると、本当に今まで同様のボランティア養成講座で、すべての人が日本語を教えるっていう流れ。それが本当に妥当なのかどうかは、全国でちょっと問い直されているところだと思います。その点は、ぜひ皆さんもお知りおきください。他のご意見いかがでしょうか。

委員

今、丁寧に取り組みの状況をご説明いただいた中で、行政の関わりでの取り組み等々が中心になっているのかなど。そういったことを考えると、取り組みの不均衡を是正する必要がある。今日ご報告いただいたところで、私だけかもしれませんが、その労務の関係とか、医療の関係ですかね。施策ナンバー31ぐらいから36ぐらいのところがありますけど、どうしても薄いついていうか、未実施が多いということなんですけど、良いとか悪いとかじゃなくて、理由があるのかみたいな。今日の時点で、取り組み状況の説明の中で、その辺の取り組みな

い理由等々まで把握してらっしゃるのかどうかというところを、追加で、教えていただけたらなと思います。それを質問する理由としては、次どうなるか分かりませんが、ここに関係部局と挙げていても取り組まなければ、ちょっとつき合っていないというのありましてですね。次の作戦のためにも、その根本的な課題等々があるのかどうかみたいなことが、今の段階でわかっているならば、教えていただけたらなと思うんですけども、いかがでしょうか。

会長

ありがとうございます。実は、この点、私からも発言させていただこうかと思っていたところでした。施策ナンバーで30番、そして32番に、労政課さんが、該当企業が見つからず、未実施。そして、隣のナンバー34番で、こちらもひたすら未実施。こちら、プラザに質問はされているのだろうか。企業について、自分たちは知らなくても、プラザであれば、相当に把握しています。こういった企業が、こういった取り組みをして、ここは、こういう事例もありましてみたいな。実際、直に企業に聞いてもらうのが一番なんですけど、やっぱりプラザとの連携ですね。また、医務課さんに関して、本当にプラザでこういった病院の通訳も必死になって探しているわけです。信州大学にも連絡をきて、ベトナム人の留学生いませんか、などということは、実はしょっちゅうあります。そういった実態を、よりプラザを活用するっていうのも含め、また今の、委員さんからのコメントもありましたので、事務局から回答お願いいたします。

事務局

医務課、労政課の取り組みのことになるとと思いますが、昨年度まで取り組み状況の各課への確認ということで、短期の取り組みについて照会をかけておりました。それで、今年度、プラン4年目になりますので、中期長期のものも含めてということで、各担当の方には照会させていただいております。

医務課の取り組みについてですが、医療の関係となるとどうしても、医師会等関係団体というところも関わってくるということもありますし、それから市でやっている、小児科・内科夜間急病センターになりますけれど、そこは少し進捗始めて、来年度、通訳機を入れるということになっています。各課で中期の取り組みとか、短期に比べ温度差もありますので、今回、私どもも、中期長期も含めて、また各課には要請をしていくというところ、それから情報提供もしていきたいと思っております。

労政課につきましても、前任の担当者が今年度異動しておりますので、連携もしやすくなっているかなと思います。それからハローワークさんですね、労務につきましても、いろいろとご協力いただいているというような形もありますので、そういった、また違った切り口からもいろいろ進めていかなければいけないかなと思っております。これについては、また各担当とも調整をしていきたいとは思っておりますし、ハローワークさんとも引き続き、いろいろと調整を図っていきたいと思っております。

会長

ぜひ、プラザが、こういうところであり、こういう情報を持っているっていうことを、この両課だけではなく、様々な課にお伝えいただければと思います。

では他にご意見いかがでしょうか。

委員

行政で、多言語の生活ガイドブックであったり、ホームページの自動翻訳であったり、あとは、SNSでの情報発信、それと住民票の記載例の多言語化、多言語防災ハンドブック等を作成していただいていると思うんですけども、こちら当社としてもやっぱりいろいろなところで活用させていただきながら、実際に働いている方の生活に役立てたいなと思っております。しかし、この言語にもものすごくばらつきがあるというか、例えば、あるもので今後ベトナム語に対応するっていうのであれば、そしたらすべて対応していただきたいとか、統一がないと、これはあるんだけど、こういうのがあるから、使ってみようと思ったら実はこれは対応してなかったみたいなの。対応言語のばらつきがあるので、個々の言語の設定としてどのような形で行われているのかを教えてくださいなと思いました。

事務局

今、実は松本市内に60カ国以上の方がいらっしゃるものですから、すべての言語にはなかなかちょっと対応できないというのが実際のところではあります。

そして、やはり翻訳していただける方を探すというところをもありますので、基本的には先ほど、どの国の方が多いのかというようなお話もありましたけれど、割と、多いところですね、そういったところをターゲットに増やしていているような状態です。

委員

なんて言うんですかね、冒頭で今後、ネパールが増えていくのではないかというような推測もされているようなので、そういったところもあって防災ハンドブックについては、ネパール語も検討されていると思うんです。そうであれば、基本的には、その他に対しても同じように検討されていくというような形がとられるのがベストではないかなというふうには思います。その点はどうでしょうか。

事務局

ネパール語につきましては、先ほどの生活ガイドブックの説明のところ、ご説明してなかったかと思いますが、ガイドブックについても防災ハンドブックと同様に、ネパール語について、来年度、作成をしていく予定でございます。よって、生活ガイドブックと防災ハンドブックの言語については、同様な形で進めて参りたいと考えております。

委員

委員さんがおっしゃるのは、ものによって、言語があるのとないのがあるから、それは統

一がされた方がいいんじゃないかっていうご指摘ですね。

事務局

ものによってとおっしゃるのは、その生活ガイドブック防災ハンドブックとは別に、市ホームページの自動翻訳の言語数とか、その辺の統一性がとれていないということでしょうか。ホームページになると、またシステムのなところがあったりするものですから、そちらは、担当課の方と確認をとりたいと思いますけれど、確かにこっちは、8言語までできている、こっちは6言語っていうのも、おかしな話だとは思いますが、できるだけその辺の、対応言語っていうのは、統一できるようにまた考えていきたいと思えます。

会長

はい。ありがとうございます。実は大変なお金のかかる話なんですよ。言語翻訳をすること、翻訳したバージョンを大量に印刷をすること。また、有効に利用していただいている、委員さんの企業のようなところであれば、本当に嬉しいのですが、結局全然活用もされないし、市役所の倉庫に山のようにある。そういったかたちになってしまうこと、これは全国どこの自治体でも、起きていることのようにです。

私たちが、この関係のことでよく話しているのは、翻訳アプリが進むのが早いか、通訳要請のシステムができるのが早いか。翻訳アプリの進化、そしていろんなAIの進化、そういった形での、言語というものをデバイスがサポートする時代が来るんじゃないか。もちろん生活をする上で日本語を学んでもらう、やさしい日本語を日本人が学ぶ重要性は変わらないんですけど。やはり、いつまでも行政がお金を出してどんどん翻訳物を作っていくというのは、おそらく限界があるだろうし、無理がある。

市の翻訳は、一人の人が翻訳するんですよ。例えば、タガログ語で翻訳されたものを、こちらにいる委員さんが見たら、この辺はおかしいよ、というふうにおそらく思うんです。これは、こんなふうに翻訳してあっても分からないとか、もとの意味が違っているとか。そういった点も考えると、やはり、一つのをどんどん多言語化していくっていう限界もある。もちろんデバイスの限界もあるんでしょうけれど。対応力はそちらの方が上になっていくんじゃないかとも思っています。すいません、余計な話でした。

委員さん、何かご意見等、ご質問等ありましたら。

委員

キーパーソンの活動ですけれども、こんなにたくさんあるもののうち、これまでどれをやってきたか、どれならできるかを考えていましたが、やっぱり私たち外国人のキーパーソンは、仲間うちへの情報発信が重要だと思います。そこで、情報発信の課題というか希望が一つあるんですが、私たち通訳翻訳者とキーパーソンもそうなんだけれど、例えば年1回でも2回でもいいからレベルアップみたいな講座をやってほしい。通訳も、私たちは何を通訳しているのか、病院の関係とか、学校の関係とか、いきなり呼んで、説明してください、通訳してくださいじゃなくて、ある程度、私たちもキーパーソンとして、松本市のプログラムと

かシステムとか、そういう勉強会というか、講座があった方がいいかなと思っています。

そうすると、周りの自分たちのフィリピンのコミュニティで何か聞かれたらすぐ答えられるようになる。今は、知らない部分がたくさんあるから、プラザに行った方がいいよって伝えることもあるが、全員がプラザに行ってくれるわけじゃない。行こうかどうか悩んでしまったり、時間もなかったりで。だから、学校関係、病院、保険、年金のこととか普段の生活の勉強会が、私たち外国人キーパーソンにあった方が助かります。

会長

はい、ありがとうございます。

本当にちょうどタイムリーに、次の議題、(2)のキーパーソンの具体的な活動の明確化について、移ろうかと考えていたところで、ぜひ事務局の説明、そしてその後、改めて今の委員さんの意見を、取り上げたいと思いますので、事務局から説明をお願いします。

事務局

(キーパーソンの具体的な活動の明確化について、資料に基づき説明)

会長

はい、ありがとうございました。

ちょうど、さきほどの委員さんから話がありました点は、このキーパーソン研修会、これを年に数回実施していくといったところで、ぜひスキルを上げていただき、フィリピンの方から相談があった時に、委員さんが即座で、ある程度は答えられ、それで難しい点はプラザにつなぐっていったことが、これは、台湾出身の委員に関しても、台湾の方のネットワークの中でそういった方、タイ出身の委員さんに関しても、タイのネットワークの中で。それがどんどん進んでいくことができるというふうに考えます。

昨年10月に実施した意見交換会、日本人、外国由来の人合わせ30人ぐらいの方が集まった会をすでに行って、動いております。私も声かけてみたところ、非常に反応がよかった。とても外国由来の方の反応が良かった。声をかけた彼ら自身、当然日本語もかなり上手で、長く住んでおり、そして意識が高い。そういった人たちが、恐らく自身が関心があるので、ものすごく忙しい中を、この10月30日という平日の夜に集まってくれた。彼らのニーズもあり、そして市役所、行政側で、本格的に動いてくれたことを恐らく喜んでいるんだというふうに感じました。それが、こちらのキーパーソンネットワークという、2010年から構想があり、そしてプランには2回書かれてはいるんですが、なかなか動いてこなかったものが、ようやく本格的に動き出しているっていうのは、現状、私が感じていることになりまして、今の、事務局からから説明いただいた内容も、非常に私自身は納得できるものではありませんが、ぜひ委員さんのご意見も、いかがでしょうか。これをご覧なった上で、ぜひお願いしたいと思います。

委員さん、例えば研修会で、さらにもっとこういうものがあればっていうのもありましたら。

委員

私は、相談されても答えられるのは、自分が経験したことだけです。だから、その研修で、外国人のキーパーソンとして、その研修が役に立つかたちでやった方が無駄にならないと思います。特に生活の関係や子育ての関係。

あともう一つ、防災ハンドブックや生活ガイドブックはどこに置いてあるんですか。

事務局

生活ガイドブックとか防災ハンドブックは、紙に印刷したものっていう形では用意はしてなくて、スマートフォンとかでQRコードを読んでいただくと、そちらにダウンロードができるっていうような、QRコードを1枚に多言語でまとめたものを、市役所の関係機関の窓口においてあります。例えば市民課では、転入されてこられた外国人の方には、そういったものをお渡しして、自分に必要な言語で、QRコードで読んでくださいっていうようなことでやっております。あとホームページでも公開しています。紙で厚いものを読んでくださいっていう形では、行っていません。

委員

けれども、私たちキーパーソンとしては、一冊でもいいから持っていた方が、その場で、このページにあったっていうのが確認できるし、その場にインターネットの電波があるかどうかとも分からないので、ハンドブックがある方が、私だけかもしれないけど、すごく助かります。学校の関係もそうだし、病院の関係もそうだし、防災の関係もそう。なんでも、新しい情報があれば、私たちに資料としてあった方が、助かります。

事務局

貴重なご意見本当にありがとうございます。確かにそうですね。やっぱりキーパーソンの方は、手元にすぐに見られるものが、あった方がいいと思いますので、これからそういった新しいものができた際には、キーパーソンの方には、資料としてお届けすることを考えていきたいと思います。ありがとうございます。

会長

ご意見ありがとうございます。

キーパーソンは莫大な数ではございませんし、委員さんが、必要な言語だけあればいい。それを考えると、必ずしもそんなに大変な数ではないので、キーパーソン登録されている方には、その言語のものをお渡しする。今までのものも含めてですね。今も委員さんからもありましたが、そういうものが手元にあれば、時には勉強するかもしれない。市役所の情報を読んでいただいたり、子育ての情報を読んでいただいたり、そういったこともあり得るかと思います。

そして、第一次プランでキーパーソンの研修が、正直あまり機能していなかったのは、今

お話があったニーズに答えていない。実施側が、こういうものがあればいいだろうっていう形での研修になっていたように私は記憶しています。そういう意味でも、今回3月4日にまたありますけど、そういったところで、どういう研修のニーズがあるか、それはこちらの委員さんはもちろん、それからキーパーソンに登録されている方にも、聞いた上での研修会の実施をぜひお願いしたいと思います。

他の皆さん、このキーパーソンについて、ご意見いかがでしょうか。

委員

このキーパーソン、今、会長おっしゃったように、ポジショニングとしてはすごく有効だが、なかなか長い間機能していなかったっていう流れがあります。

それで、そのことを反省として、もし取り組むのであれば、もう少し全体的に踏み込んで、取り組んでいく必要があるのではないかなというふうに思います。具体的に、外国人キーパーソン、日本人キーパーソンを例えば、何年までに何人配置するとか。60カ国いて、4,111人いるとすると、60カ国それぞれの外国由来の60人っていうことは難しいですので、同じ母国語の住民が300人以上の人口がいるところに、キーパーソンを1人つけるというようなかたち。場合によっては600人であれば、外国由来のキーパーソンを2人つけると、必ずしも1人じゃなくて2人つけるみたいなかたち。こういう人数には、こういう割合でつけるという。

もっと厳しく言うならば、外国人キーパーソンは、誰でもなればいいのかということじゃなくて、松本に滞在をして5年以上の人がそれになり得るだとか、そのぐらい踏み込む。そうすることによって、定期的に研修をするが、当然ペイも発生する。そのぐらいのことまでやらないと、またこれもこのまま次3年かなっていう感じがするんですよね。

それで、先ほど委員さんがおっしゃった、もし翻訳の対応言語を10カ国にするのであれば、キーパーソンも10カ国は全部対応をする。そういう因果関係ですね。松本は、15カ国の言語に対応にしますって言うならば、例えば15カ国のキーパーソンを作るみたいな。全てとは言えないんだけど、何か因果関係を作る。でも10カ国、15カ国でいいのかって言ったならば、例えば数の少ない国は、その他、みたいなかたちで作っていくとかですね。より具体的に、お金もかかることですので。

そういった観点から見ると、このキーパーソンの具体的活動の明確化についてっていうのは、もう少しキーパーソンの、資格と言いましょうか、どういう人がなり得るのかみたいのところまで言及する必要があるんじゃないかなっていうふうに個人的には思います。

それで、当初から外国人・日本人キーパーソン両方を設置するっていうのは、実は、本市の大きな特徴でもあったんですよね。普通は、外国人キーパーソンでいいのかなと思うんです。けれども、やはり外国人キーパーソンであれば、外国人のネットワークが強調されていくと。でも、松本は、35の地区がベースにあって、地区地域づくり等々との施策の中で進めてきているということであれば、外国人キーパーソンと日本人キーパーソンとの関係性が重要です。ここを見ると、外国人キーパーソンと日本人キーパーソンというのは別々の感じがするんですよね。外国人キーパーソンをもし決めるのであれば、その外国人キーパーソンに

関係する日本人キーパーソン、関係するっていうのは、地区に関係するのかどうか分かりませんが。そういう人が日本人キーパーソンとなって、外国人キーパーソンとがタッグになってやっていく。そういうような関係性は、かなりいろんな議論だとか、地域づくりの実績等々で、もう積みあがっていることですので、それは実態に合わせた形でこういう新しいキーパーソンを配置する必要があるんじゃないかなと思いました。一挙に進められるかどうかは分かりませんが。

会長

大変貴重なご意見ありがとうございます。

特にこのまま、次のプランもあまり動かなかったねっていうふうなかたちには、何が何でも、すでに2回、そんなかたちで進んでいますので、第3回は、それは絶対ないようにできればというふうに私も考えております。第1回と第2回の大きな違いはやはり、それぞれの地区に、しっかり残すこと、日本人キーパーソンを含めことなので、やはりこの地区だったらあの人があるよね、外国由来の人とタッグになっている日本の方が2人いるよね。場合によっては、3人いてもいいとは思いますが、4人いてもいいとは思いますが、そういった地区での目標ということ。そして、今話がありましたように、多い人数ごとに、300人に1人ではちょっと少ない気がしますので、100人に1人でもいいかもしれません。そういったかたちで、その人が駄目だったら、次はこの人に頼もうっていう、何人も候補がいるような、かたちでの目標設定。それは実施して、そして実際に成果を上げていく上では、非常に大事な視点ではないか。

また最初に委員さんの質問にもありました、インセンティブ。インセンティブの一つとして、今までに発行されているハンドバックをお渡しするっていうのは、一つのインセンティブになるかもしれないんですけど。本当にある程度動いていただくのであれば、インセンティブを出す代わりに、こういったレベルの方、そして場合によっては面接を含めて、実際に委嘱する方には、このレベルの方っていう、明記するものもいいかとは思いますが。もちろん予算に限度があるので、経常的なものでもなくてもいいんですけど。こういう活動の際には、こういった形での謝礼がありますよっていう。

やはりうちの留学生でも、就職が決まった四年生は喜んでやったりするんですけど、一年生はなかなか動いてくれないんです。授業があつたり、いろんな活動があつたりで。やはりある程度余裕がある人じゃないと、無償では、ボランティアでは、なかなか動いてくれない。それが現実です。ここにエネルギーをかけるのであれば、そういった検討も必要かと思えます。私の意見が長くなりましたが、他の委員さん、いかがでしょうか。

委員

日本人キーパーソンとして、発言させていただきます。平成29年度に登録して、結局、今の状況は、外国人キーパーソンの方に関しては、連絡が密にあつて、多分、進まれていると思うんですけど、日本人キーパーソンに関しては、結局、自分で考えてね、みたいな感じのところがあつて。今回は、具体的にこの言葉になっているっていうことがとても意義があ

と思います。この日本人キーパーソンっていう活動を、私は、多分ほとんどやっていると思うんですが、でも、日常、キーパーソンだと思ったことはないんですよ。なので、やっぱり、先ほどおっしゃってくださったように、ここまでやっているなら、キーパーソンと名乗らせて欲しいみたいなどころがあります。要するに、具体的な構造、資格を作っていただきたい。それで、前々から思うに、日本人キーパーソンの活動って、やっぱり外国人キーパーソンのフォローとかだと思うんです。その辺も、何か具体的にこういう風に手伝って欲しいよって、言ってくれば、できる限りやるんだけど、なんか日本人キーパーソンって蚊帳の外っていう感じがしています。なんかいらぬよねって感じになってくるので、その辺も検討をお願いします。

会長

ありがとうございます。

前回 10 月 31 日の意見交換会は、自分はずっと教室で、もしくは教室の外で、いろんな人をサポートしてきて、別にキーパーソンなんて言われたこともないし、言われたくもないから、登録しませんという方もいらっしやっただです。非常に力のある方で。そういった方もやはり、いらっしやっても全然構わないですし、一方で、キーパーソンとして活動したいっていう人に、ちょうど課長が首にかけていらっしやる、こういったもの（名札）ですよ。これだけでも、やっぱこういう活動する時にはそれが、名前を印刷したものをお渡しするっていうのでも、実は結構なインセンティブになるかもしれない。お金もかかりません。そういった形で何かあればいいかなと思いました。

他、いかがでしょうか。

委員

私も 10 月 30 日の意見交換会に参加させていただいたんですけれども、そのとき初めてそのキーパーソンの登録をしました。2010 年からスタートされた、という風におっしゃっていましたが、私もこの協議会で何年もそのキーパーソンネットワークの話はずっとしてきてですね、一度もそのキーパーソンになってくださいって言われたことがなくて。どういふふうに登録すればいいのかっていうのは、おそらく私が考えているのは、市でこの人だったら適任だろうっていう方を選んで、お声掛けしていたら思っていたんです。ですので、10 月 30 日初めて登録したっていうのもまた、ちょっと変な話なんですけれども。

そういったわけで、そのキーパーソンネットワークっていうのは、長野県でも同じような制度として地域共生コミュニケーターとか、災害時語学サポーターとかありますけれども、それも、外国人住民の相談やニーズの集約拾い上げとか、外国人住民への情報の伝達とか、役割としては同じです。しかし、じゃああなたお願いねって言うだけでは、やっぱり、全く機能しないんです。こういう制度っていうのは、ですので、何らかのシステム化をして、会長さんがおっしゃっていたように、ある程度無償ではなくて、実費ぐらひは支払うとかですね。毎月どういふ活動したのかっていう報告を出してもらってその代わりに、何らかのそのメリットをあげるとかですね。そういうふうにしないと、この仕組みっていうのは、ずっ

とこのままの状態、一応あるんだけど、全然機能してないねっていう状況が続いてしまうのではないかと考えておりますので、ちょっとそこら辺を真剣に考える必要があるのかなと思います。以上です。

会長

ありがとうございます。

キーパーソンでも、例えば、プラザ相談員として、ある程度仕事のレベルでもされている。そういった人から、もしくは、そこまでではないけれど、時々相談を受けることもあるっていう人から、もしくは、関心はあるので、これからそういうことをやっていきたいっていう人まで、インセンティブやそういった研修の度合いは違っていると思うんですよ。それはまた当然、上下の移動があるんで、下から上に、ということもあり得るようなかたちで、システムがしっかり目に見えていると、なるほどっていうかたちで動いてくれるかもしれないとは思っています。

では、今までご発言のなかった委員さんもぜひご意見ありましたら。

委員

多文化共生プラザの SNS は、Facebook だけじゃ足りないと思います。あらゆる SNS で発信やシェアっていうのはいかがでしょうか。例えば、WeChat、LINE、Twitter、YouTube など。あと、いろんなキーパーソンが情報をシェアする時、そのままシェアするだけでなく、キーパーソンは自分の言葉や考えを加えてシェアするのがいいかなと思います。

あと、多文化共生のいろんなチラシを、町会の回覧に加えたらどうかなと思います。必ず各家庭に行くので、いいと思います。

会長

ご意見ありがとうございます。

SNS によっては、かなり個別性、つまり発信ができない、関係がないと送れないっていうものもありますけれど。例えばインスタグラムであれば、フォローがあれば、ある程度こちらから発信がこちらからできる。そういったもののある程度工夫が必要だと思います。

チラシは、ある程度プロの人に、そして多文化共生を分かっている人にチラシは作っていただきたいなと思います。この力は、大変なものです。こういった力がある人は、全然いないですが、そういった人を捕まえて作成いただければと思ったりします。これは、ちょっとついでなんですけど、2月29日にイギリス、ドイツ、韓国、カナダ出身の方、そして私からは、日本の先進的な多文化共生の自治体。そういった四つの先進自治体と日本の先進地域の例を紹介しみんなで話そうというイベントがあります。この建物の6階であるものですので、よろしければ、ご参加ください。

では他の方もご意見ありましたら、これまでの議論も全体をとおしてで結構です。

委員

ちょっとうまくまとめられないんですけど、キーパーソンっていうせっかくいい制度があるのに、なかなか、機能していないっていう話だと思いますので、今地区ごとの話もあったんですけど、例えば、松本市は、中国の方、韓国・朝鮮の方の人数が多く、多いところはそこにもコミュニティがあるとおもうので、そういったところを訪ね、コミュニティの方にキーパーソンをお願いするだとか、先日ハラルカフェの記事が新聞に出ていましたが、そういうところも訪ね、キーパーソンをお願いするとか、そういう活動をして外国人の方のニーズを吸い上げていくというのをやってもいいのかなと感じました。

委員

ハローワークでは、外国人を雇用している事業所さんを訪問して、国で出している外国人の方を適切に雇用していただく指針を紹介しながら、指針に沿って雇い入れしてくださいとお願いしています。指針の中でも、業務外の日本語教育とか、日本の文化風習についても指導していただくことになっているので、訪問の際にも必ずお話しているところです。

訪問の際に市で作成しているリーフレット等を事業所に配布をして、外国人労働者の方に情報提供していただくことをやらせていただいているが、先日市の担当者とも打合せをさせていただき、その資料の中にキーパーソンに関するものも加えるのはどうかという話もあった。今後も市と打合せ等しながら、連携して進められればと思います。

会長

まとめができるか分かりませんが、キーパーソンの活動を見ると、キーパーソンになり得る人でも、最後の「キーパーソン研修に参加する」という部分を気にして、キーパーソンにはなりたくないと言う方がいるかもしれない。外国人住民がよくいくお店などは、キーパーソンとしての役割は果たしているが、忙しくて研修などは出てこられない。しかし、そういうところにもキーパーソンをお願いしていく視点も必要かもしれない。

また、私は何か取組む時に、段階を整理するようにしている。キーパーソン・ネットワークについて整理すると、「ステップ1 探す」、「ステップ2 研修・訓練」、「ステップ3 実施・さらなる研修」と考えるが、現状はまだ「ステップ1」の段階だと思う。段階をしっかりと踏まずに、次のステップに移ってもなかなか上手くいかないなので、段階をしっかりと踏んでいくことが重要。

また、キーパーソンになるメリットを人から聞かれたときに、今は、二つしか言えない。一つは、やりがいがあること。もう一つは、災害情報などを早めに入手できること。他のメリットとして、先ほどガイドブックを配ってもらうという話もあったが、ハザードマップも配ってもらうのもいいかもしれない。

最後に、SNSについて。キーパーソンの災害時の役割に情報発信があるが、東日本大震災のような大きな地震が松本であった時は、どのようにSNSで情報発信をすればいいのか。それは、課題だと感じています。以上です。

会長

はい、ありがとうございます。時間も来ましたので、事務局にマイクをお返しします。

事務局

長い時間にわたり、活発な議論をいただき、ありがとうございました。今日いただいたご意見は、キーパーソンの活動に関してもそうですが、プランの施策取り組みに関しても、今後第3次プラン策定に向かっていく中で、参考にしていかなければいけないということと、キーパーソンに関しては、なかなか進んでいないという中で、第3次プランでは必ず実行していかなければいけないと感じました。今日いただいたご意見は、事務局の中でも整理いたしまして、次につなげていきたいと思っております。

先ほど、施策に対しての優先順位が分かりにくいというご意見を委員さんからいただきましたけれども、第2次プラン施策の確かに具体的にこれが優先だというのはないです。短期、中期、長期の中で、短期に挙がるものについては、その期間の中でやっつけようとなってますが、その短期の中でさらにどれを優先するかと言っているのは、示されていません。確かに、委員さんがおっしゃられたように、限られた予算、人員の中でいかに施策を実行に繋げていくかという優先順位はやはり必要だと思いますので、その辺りも第3次プランでは、数値化できるものは数値化するなどということを考えていきたいと思っております。

(今後のスケジュールについて、資料に基づき説明)

以上を持ちまして、第2回多文化共生推進協議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。